



東久留米の近代史シリーズ5

武蔵野鉄道東久留米駅 (16)

武蔵野鉄道から西武鉄道へ (2)

新しい東久留米駅

東京の郊外は日本の高度成長期である昭和30年代以降にベッドタウンとして発展し、急激な人口増加の時期を迎えます。図1は東久留米市の人口動態を表したのですが、1956年(昭和31年)の町制施行から1970年(昭和45年)の市制施行の間に日本一の人口増加率を記録しました。こうした社会的な変化に対応するため東久留米駅とその周辺も施設整備を進め、1970年(昭和45年)には相対式ホームの建設、1994年(平成6年)から1996年にかけては西口開発に呼応した橋上駅舎が建設され、西口と東口が開設されました。そして、2010年(平成22年)には長く東久留米の顔として活躍した旧駅舎も解体され、新しい北口として大きく変貌をとげました。



写真1 新しくなった東久留米駅北口

2021年撮影

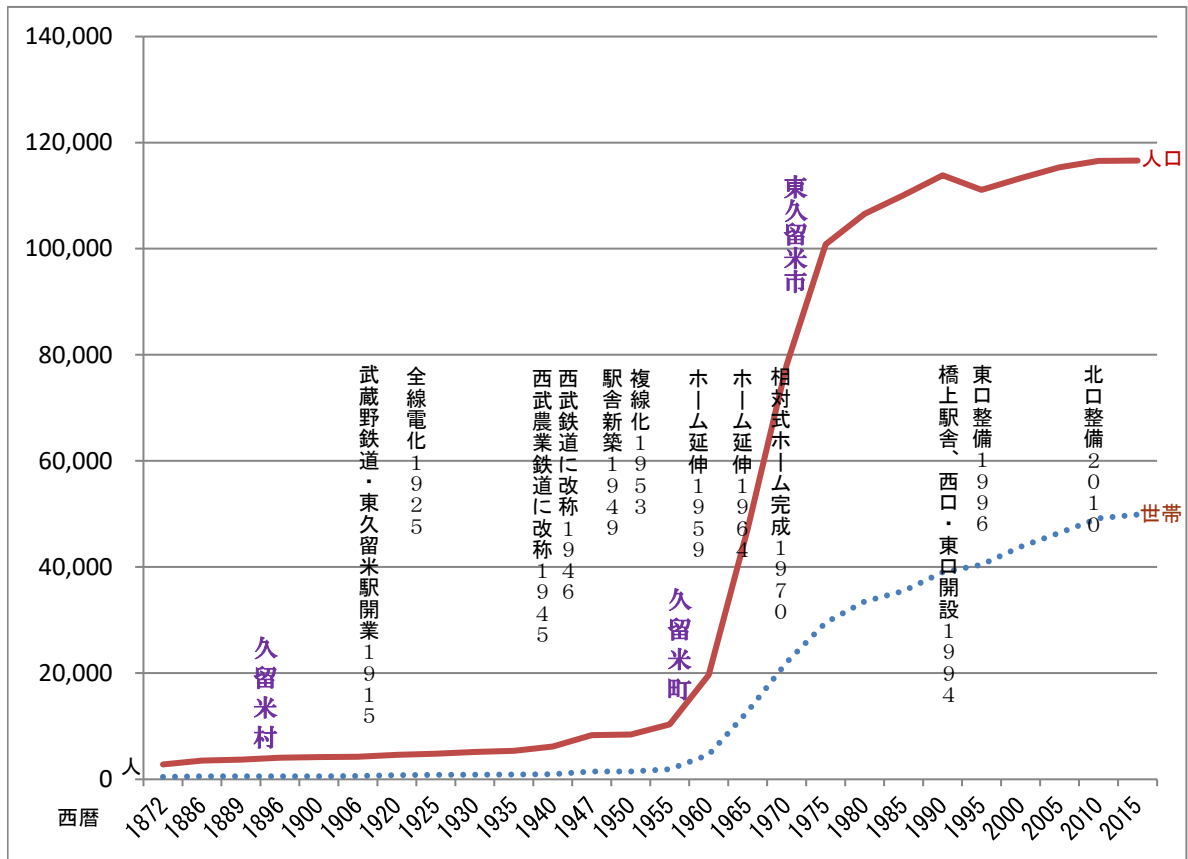


図1 東久留米市域の人口・世帯推移と東久留米駅の変遷 (筆者作成 2026)



写真 2~4 東久留米駅相対式ホームの完成

1970年撮影

1970年(昭和45年)に相対式ホームが完成し、駅の利便性は格段に向上しました。右下は1969年の工事中の撮影。



写真5 橋上駅舎と西口・東口の開設

1997年撮影

左が西口と西口広場、右が東口です。清瀬方向（上）に見える白い旧駅舎はそのまま北口として使用されました。



写真6 橋上駅舎工事と西口整備

1994年撮影



写真7 東久留米駅東口整備

1995年撮影



シリーズで掲載してきました「武蔵野鉄道東久留米駅」も今号で最終回となります。今年の4月15日には東久留米駅開業111年を迎え、さらに11月15日には西武鉄道になって80年となります。左の書籍は東久留米駅が100周年を迎えた2015年（平成27年）に東久留米駅前商店会が作成した『100年物語 - 東久留米駅開設と駅前商店街発展 -』（竹内俊雄元商店会長提供）です。武蔵野鉄道の誘致から、さまざまな困難を乗り越えて市民に親しまれてきた東久留米駅の様子が生き生きと描かれています。今後もさまざまな物語が紡がれる東久留米駅として発展してゆくでしょう。

※写真1（筆者撮影）以外の写真は東久留米市郷土資料室所蔵
文責・山崎丈（東久留米市文化財保護審議会委員）

速報!

発掘調査情報!!



令和7年9月29日～令和7年11月25日にかけて、市 No.24(地頭山)遺跡にて開発に伴う緊急発掘調査が実施されました(第2次調査)。発掘調査では、縄文時代中期中葉～後葉と思われる住居跡7軒、土坑6基、ピット(小穴)5基が検出され、縄文時代の土器や石器が約 2560 点出土しました。

令和8年度、整理調査作業が実施され、発掘調査報告書が刊行される予定です。
ぜひ、ご期待ください!!

地頭山遺跡

- ・所在地: 南沢 2-13-14
- ・時代: 旧石器時代、縄文時代
- ・概要: 立野川南側台地上に位置する
縄文時代中期の集落跡



住居跡掘削作業中

住居跡出土縄文土器(炉に転用されている)



～縄文時代について～

- Q 縄文時代中期っていつ??
- A 今から約 5,000～4000 年前
- Q 発掘調査でどういうものが出てくるの??
- A 当時の生活道具がでてきます!
例)土器(調理・貯蔵用)・石器(狩猟道具)・装飾品(アクセサリー)など

編集・発行

東久留米市郷土資料室 (東久留米市教育委員会生涯学習課文化財係)

203-0033 東京都東久留米市滝山 4-3-14 東久留米市わくわく健康プラザ内

電話 042-472-0051 無断転載はしないでください